

12月9日から市民文化会館で風景画展も

郷土作家の市収蔵美術品を紹介しします

本市では全国レベルで活躍した本市出身やゆかりの作家の美術作品を収集していますが、その作品を普段鑑賞できる機会はありません。今回は市収蔵美術品を紹介する取り組みについて生涯学習課で話を聞きました（担当は市民編集委員・古田島、石原）。

問い合わせは生涯学習課 ☎ 890-5825へ。



高橋常雄「遠野」



田中青坪「浅間高原」



清水刀根「三津浜風景」



中村節也「山頂の雲」



田村清男「湯沢雪景色」

展覧会で51作品を展示

日時=12月9日(土)~17日(日) (12日(火)を除く)、午前10時~午後6時 (入場は午後5時30分まで)
会場=市民文化会館 内容=市収蔵美術品の風景画を展示

□ギャラリートーク

日時=12月10日(日)午後2時 会場=市民文化会館 対象=一般、先着50人 内容=県美術会常任理事・浅田萩石さんが作品の鑑賞ポイントなどを解説 申し込み=当日会場へ直接



絵の中に懐かしい風景が

全国レベルで活躍した本市出身または本市にゆかりの作家を中心に、教育委員会が専門家の意見を聴きながら高水準の美術作品を収集しています。こうした美術作品を広く紹介するため、「収蔵美術作品展」と題して、本市が収蔵し

ている美術品を一般公開しています。本年度は「郷土作家が描いた日本の風景」というテーマで、収蔵美術品の中から五十一点の風景画が選ばれました。人物画や静物画も味わいがありますが、見る人を飽きさせないという点では、風景画の方が親しみやすいのではないのでしょうか。展示作品の中には利根川や浅間高原など本県を代表する景色を描いた作品以外にも、名所として有名な伊豆や遠野などを描いた作品も多く展示される予定です。



5人の作家のプロフィール

田中青坪

一九〇三年、本市生まれ。太平洋画会研究所で洋画を学んだのち、小茂田青樹に師事し日本画へ転向する。院展で奥村土牛、小倉遊亀らとともに当時最年少で同人に。その後も、院展を中心に活躍。洋画的な筆遣いと明るい色彩の作風を展開した。

中村節也

一九〇五年、邑楽町生まれ。学年は違ったが清水刀根と同じ旧制前橋中に学び、絵の道を目指す。アメリカでの個展の開催や油墨画の指導の経験を持つ。力強く豊かな色彩感覚が特徴。安定した構図で人物表現に味わいのある清水刀根とは異なる作風だが、二人は本県洋画壇の両輪ともいえる存在である。

高橋常雄

一九二七年、本市生まれ。病氣療養のかたわら油絵を学び、後に日本画に転じる。望月春江、福王寺法林に師事。一九五三年、日展で初入選を果たす。ネパールやヒマラヤを取材し、その景色を描いた作品で一九七五年に日本美術院賞（大観賞）を受賞。院展特待に推挙された。

田村清男

一九一五年、本市生まれ。群馬師範学校（現群馬大）卒業後、市内小中学校に勤務の後、下川淵小、二中、養護学校の校長を歴任。退職後、成人学級など公民館活動に励み、県青年の家、県立近代美術館などで水彩画講座を担当。青年会議所が製作した「前橋かるた」の絵も担当した。

清水刀根

一九〇五年、本市生まれ。旧